資料No. ９

生駒市北部スポーツタウン構想（素案）

テーマ

「アスリートとふれあえる街
～誰もが集(つど)えるスポーツ施設を目指して～」

○ 生駒市スポーツの現状と課題

○ 北部地域を活用した生駒市スポーツ振興基本計画の推進に向けた取り組み

１．総合型地域スポーツクラブによる施設の管理運営と事業展開

２．アスリートとふれあえる街

３．誰もが集えるスポーツ施設

４．ランナーズ・サイクルステーションの設置

５．スポーツ合宿システムの構築

○ 収入等について

○ まとめ

【生駒市スポーツの現状と課題】

本市では、運動・スポーツを行う頻度は２０歳代、３０歳代が他の年代に比べ低く、６０歳代では高くなっている。

年代ごとにスポーツを行う頻度が異なっているため、個々人にあったスポーツライフを展開する必要がある。

また、本市の運動やスポーツを週１回以上している人の割合は約４割となっており、今以上に気軽にスポーツを楽しめる環境が必要である。

気軽にスポーツを行う環境をつくる一方で、スポーツを行う上で、「アスリートを目指したい」と思われている方が多く存在しているため、競技スポーツへの支援などを行う必要もある。

本市では、スポーツを個人で行っている人が多くなっているが、希望としては友人・知人と行いたい人が多い。

仲間と運動やスポーツを行うためにも、地域や学校、スポーツ団体や自治会が連携をとり、市民が交流できる場をつくり、地域の絆を深める必要があるため、子どもから高齢者まで様々な目的・ニーズに応えるために、総合型地域スポーツクラブによる施設の管理運営と事業展開が必要と考えられる。

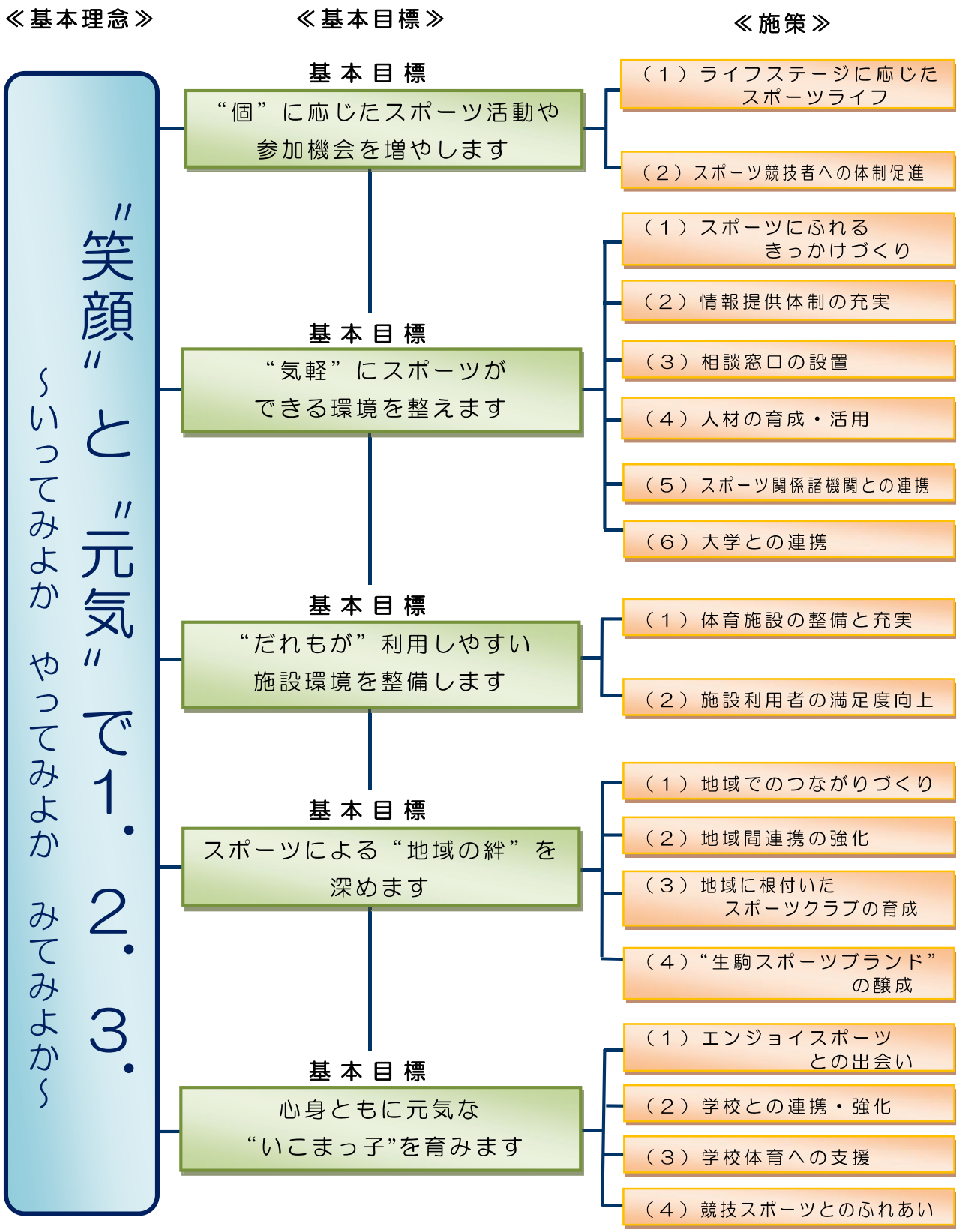
また、本市の自然環境の豊かさを活用し、ウォーキングやランニング、サイクリングなど、地域特性を活かした自然体験型のスポーツを促進する。

スポーツ施設環境については、本市の地理的な特徴も影響し、市内に数多く点在しているが、大会が行える規模の体育館やグラウンド、野球場などが同一施設内に集中している総合的なスポーツ施設がない状況である。

なお、生駒市北部地域は、児童や生徒数が減少し学校部活動なども縮小せざるを得ない状況となっている。

以上の現状や課題をもとに、自然環境の豊かさもあり様々な事業展開ができる生駒市北部地域（高山地区）を活用し、「生駒市スポーツ振興基本計画」を推進するとともに、北部から生駒市を元気にするための５つの取り組みを策定した。

【生駒市スポーツ振興基本計画の体系】

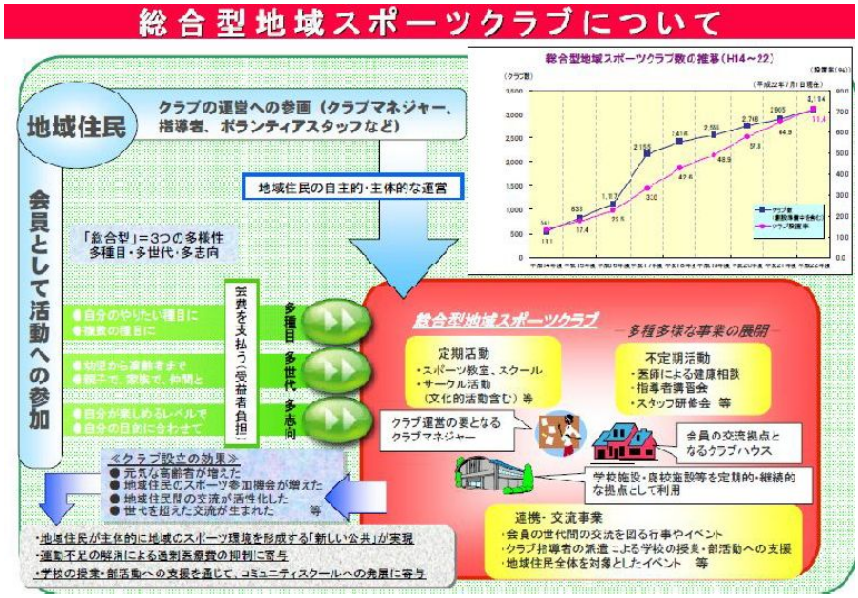


１．総合型地域スポーツクラブによる施設の管理運営と事業展開

［計画の体系　１－(1)、２－(1)、４－(3)、５－(1)・(2)・(3)］

総合型地域スポーツクラブは、新しい公共としてまちづくりを実践していく存在で、スポーツ活動を行うだけでなく、文化活動なども行い、クラブ会員がコミュニケーションの場として利用するクラブハウスを保有していることが理想とされている。

そのため、スポーツ施設に加え、研修室やクラブハウスなどが同一施設内に集中して設置されている総合的な施設であれば、総合型地域スポーツクラブの活動拠点としては最適な施設であり、スポーツと文化を融合させた多機能な事業が展開できる。



なお、北部地域にある北小・中学校区は、児童・生徒数の減少により、学校部活の選択肢がない状態であるため、学校体育の枠にとらわれない総合型地域スポーツクラブが、その地域のスポーツを支えることで、子どもたちにとって競技種目の選択肢が増え、今以上にスポーツ活動が盛んになることが期待できる。

現在、北部地域では高山スーパースクールゾーン構想があり、総合型地域スポーツクラブとの事業連携や、統合後の生駒北中学校跡体育施設（体育館）の活用などでも連携が考えられる。

また、北部地域には、くろんど池があり、野外活動や自然観察などと絡めた事業も行えることから、北部地域の活性化が図られる。

２．アスリートとふれあえる街

［計画の体系　１－(2)、５－(4)］

現在、バンビシャス奈良（日本初のプロバスケットボールリーグに今年度より参入するチーム）や、奈良クラブ（奈良県からＪリーグ入りを目指しているクラブ）の様な、県をあげて支援・応援しているチームに練習場所の提供を行うことで、施設の有効活用や市民が身近にトップアスリートと接する機会ができる。

なお、市内にはバスケットボールにしても、サッカーにしても、公式戦を行えるような施設はないが、この様なチームの練習会場の確保に協力することで、選手たちに生駒市への愛着を持ってもらい、他の市町村との差別化を図ることができる。

また、ＢＪリーグにしても、Ｊリーグにしても地域密着でのクラブ運営を目指しているため、練習会場の提供をすることで、何らかの形で市民へ還元されることが大いに期待でき、特に子どもたちを対象としたスポーツ教室の開催、また近隣小・中学校での体育授業時間を利用したスポーツ指導など、たくさんの可能性が考えられ、生駒市北部から生駒市全域へと、市のスポーツを盛り上げる一つのきっかけとなる要素が多くあげられる。

３．誰もが集えるスポーツ施設

［計画の体系　１－(1)、２－(1)、３－(1)、５－(1)］

現在、生駒市の公共スポーツ施設は、各競技の練習や大会への参加など、目的を持って使用する人のみが訪れる施設となっている。

施設内のロビーなどにセルフ式のカフェや軽食コーナーを設けることで、上記にあるプロ選手の練習風景を見に来た人にも喜ばれ、セルフカフェを訪れた人たちが、練習後のアスリートとふれあう機会があるなど、今までのスポーツ施設では得ることができない付加価値を付けることで、ふらっと気軽に立ち寄ることができる新しい形のスポーツ施設として、今までの施設との差別化を図ることで、誰もが集えるスポーツ施設となる。

また現在は、各競技のマスターズ大会など、年代に応じていつまでも競技スポーツを行うソフト面の環境が整いつつあるため、生涯スポーツ社会の実現に向け、年代や性別に関係なく活動できる施設や事業が必要とされている。

４．ランナーズ・サイクルステーションの設置

［計画の体系　２－(1)］

昨今のマラソンブームやサイクリングブームもあり、ランナーズステーション・サイクルステーションなどの需要は年々高まっている。

生駒市北部地域（特に高山地区）は交通量が少なく、のどかな風景を見ながらのランニングやサイクリングには最高の環境である。

そのため、ストレッチルーム、更衣室やシャワールームなどを兼ね備えたランナーズ・サイクルステーションを設置することで、市内利用者はもちろんのこと、市外・県外からの利用者も期待できる。

また、ステーションにレンタサイクルを配置することで、全国的にも有名な茶筅の里や市内の名跡めぐりなどと絡めた事業を展開することで、観光面での一翼も担う。

５．スポーツ合宿システムの構築

［計画の体系　３－(1)・(2)］

生駒市北部地域を取り巻く自然環境の良さや避暑地である土地柄を最大限に利用し、高校や大学のクラブ活動のスポーツ合宿の場として提供する。

生駒市北部には、くろんど池があり、周辺に「くろんど荘」（宿泊が可能な施設）があるため、現行施設の有効活用を検討する。

また、合宿シーズンや気候の良い時期以外の利用率を上げる対策として、本市の学業や音楽活動が盛んな特性を活かし、学習塾の合宿の場としての提供や、吹奏楽やマーチングバンドの練習の場としての活用も検討する。

ただし、この企画を成功させるには、地道な営業活動、様々な媒体を利用したＰＲ活動を行うことが必須条件である。

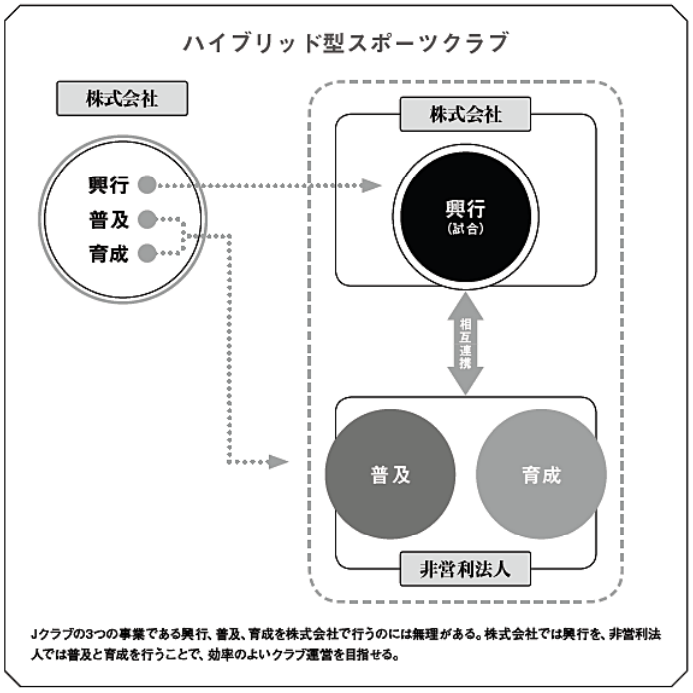
【収入等について】

生駒市北部スポーツタウンを健全に運営するための収入については、通常の使用料収入に加え、上記２．のクラブが使用する際の使用料収入、スポーツ合宿などによる収入、また施設の管理運営費の一部に充てるためのネーミングライツなどの導入を検討する。

なお、利用者数を増やし収入を上げるため、アマチュアスポーツ以外の利用を他の使用と同じように認めることや、合宿利用者優先予約、連日使用者については使用施設の割引制度を導入、送迎サービスなど、今までの体育施設使用のルールにとらわれない、サービス業に徹した柔軟な対応がとれる管理運営が必要とされる。

また、上記の１．と２．の連携がもっと発展すれば、総合型地域スポーツクラブ（非営利法人）とプロチーム（株式会社）の２つをバランスよく活用する、現在スポーツの分野で注目されている“ハイブリット型スポーツクラブ”での運営を目指すことも可能となる。

【事例クラブ】
- 湘南ベルマーレ
- セレッソ大阪
- 東京ヴェルディ　など



【まとめ】

以上に述べた５つの取り組みを実践するために、今回売却を検討されている「サンヨースポーツセンター」を活用することで、生駒市スポーツ振興基本計画を推進するための「生駒市北部スポーツタウン構想」を実現できると考えます。

サンヨースポーツセンターは、同敷地内に、体育館・グラウンド・野球場・テニスコート・クラブハウス・研修棟など豊富な施設があります。
現在は、パナソニック社員、または、同社員の紹介等がなくては利用できない施設となっており、平日はあまり利用されていない状態です。
この施設は、市の中心部から少し離れており、公共交通機関も近くを通っておらず、立地条件としては良くないですが、市内では唯一豊富な施設が集中している魅力ある施設といえます。
また、センター周辺の自然環境も良く、今まで他の公共スポーツ施設にはない、特化した管理運営方法（サンヨースポーツセンター独自の条例を制定することなども検討）を行うことにより、施設の特徴を最大限に発揮し、市民のみならず、市外・県外の方々（もちろん現在の利用者を逃がさないことも重要）にも喜ばれ利用される施設となる大きな可能性を秘めています。

なお、この構想の実現にあたっては、サンヨースポーツセンターの購入費、改修費及び維持管理費に膨大な費用が必要となる。
また、既存スポーツ施設の機能の整理や拡充等の見直しを行う必要があります。

北部地域スポーツ施設の見直し、費用の問題、また交通アクセスの悪さを解消できる対策を考え、このセンターまで来てもらえれば楽しいことがたくさんある街、そしてみんなを元気にできる街

それが **「生駒市北部スポーツタウン」** です。